



タキイ交配 ピーマン用台木

「グランバギー」

タキイ研究農場
かわにし たか あき
河西 孝昭

スタミナと複合耐病性で不良環境を耐え抜く強勢ピーマン台木！



耐病性 TMV.ToMV.PMMoV-L3.B.Pc.N

品種特性

すぐれたスタミナを発揮する強勢台木

スタミナがあり自根栽培と同等以上の草勢で栽培終盤まで収量が安定します。栽培期間を通じて吸水・吸肥能力が衰えにくく生理障害果の発生が軽減できます。

すぐれた複合耐病性

PMMoV-L3型台木で青枯病(B)と疫病(Pc)に強い耐病性を示すほか、サツマイモネコブ線虫(N)にも耐性を発揮します。

作型問わず使用可能

低温性と耐暑性を兼ね備え、ハウス栽培から露地栽培まで幅広い作型で能力を発揮します。促成栽培、半促成栽培、雨よけハウス栽培、トンネル栽培、露地栽培、ハウス抑制栽培で使用可能。

軸が太く接ぎ木が容易

本種の幼苗は主軸が太く頑健で、接ぎ木作業の効率が向上します。

※各種耐病性をもつものの、条件によっては打破される可能性があります。

草勢の維持を支える グランバギーの根



左：穂木品種×グランバギー
右：穂木品種(自根)。

栽培ポイント

1 接ぎ木可能な穂木品種

PMMoV-L3型耐病性をもつ本種の穂木には、接ぎ木親和性を合わせPMMoV-L3型耐病性品種を使用します。

2 幼苗接ぎ木での播種期

幼苗接ぎ木の場合は、穂木より1～2日の早まきが目安。

3 耕種的防除の実施

青枯病、疫病、サツマイモ

ネコブ線虫に耐病性をもつものの、圃場準備の際には土壤消毒も併用し、総合的な防除に努めましょう。

4 肥培管理

本種との接ぎ木栽培では栽培初期から枝発生が旺盛で多くの果実を着けるため、灌水、追肥を早めに開始し、草勢の低下を防ぎましょう。



←茨城県抑制作12月下旬。温暖な日が続いた後の急な冷え込み時でも生育が安定。
左：グランバギー台木使用
右：自根



←生育後半まで果形の乱れが少ない。
左：グランバギー台木使用
右：自根

PMMoV耐病性と「グランバギー」(PMMoV-L3型)との接ぎ木適合性

(タキイ主要品種)

耐病性レベル	PMMoV耐病遺伝子の型	タキイ穂木品種名	グランバギーとの適合性
↓ 強	—	京みどり、京波、京ゆたか、エース、ニューエース、ワンダーベル、ピー太郎、甘とう美人、伏見甘長、ししとう	×
	L3	京鈴、京ひかり、京まつり、フルーピーレッドEX、フルーピーイエロー	○
	L4	L4京鈴	×

※「グランバギー」を他社穂木品種に接ぎ木する場合は、耐病性がL3型かメーカーにご確認ください。

○：適合 ×：適合不可